

赤こんりポート

渥美勉リポーター



芸術の秋！触の祭典「ユニバーサル・ミュージアム さわる！めぐる物語」開催中

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA で、作品を「さわる」ことを軸にした展覧会が、12月17日まで開催されています。作品は「みる」ものというイメージが強いですが、この展覧会では視覚や聴覚に障がいのある人の作品に「さわる」ことを通じて、「現代はみる中心になり、みるだけで分かった気になっているのではないか？」と問いかけています。文字通り、手探りで作品を鑑賞することで「みる」だけでは気づけなかった、感覚の多様性やその面白さを感じることができました。

市内では、同時期にさまざまな展覧会が開催され「アートでつなぐスタンプラリー」も開催中です。詳しくは、<https://megururi.jp/pickup/153/> をご覧ください。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



天正祭「笑顔満祭～すべて越えて届け～」

安土中学校（校長・楠本茂樹）の天正祭（文化祭）が9月8日に開催されました。1年生はモザイクアート、2年生はスタンドグラス、3年生は全員で「ブラッシュアップ・スクールライフ」と題された学年劇に取り組みました。主人公が中学校生活での2つの後悔（コロナ禍で部活動ができなかったこと・いじめを見て見ぬふりをしてしまったこと）を、魔法使いの力を借りて中学校生活をやり直し、仲間との協力や勇気で解決していくという内容です。各学年の取り組みの他には、教科や部活動での展示や発表も行われました。

全校生徒が一堂に会しての天正祭がコロナ禍で長らく開催できていなかったため、今年度の天正祭は一体感みなぎる笑顔と感動あふれる、まさに「笑顔満祭」になりました。



赤こんりポート

東恵子リポーター



育てたい「自分って、すごいんや！」

「ヤング奨励賞を受賞したよ！」と話してくれたのは、「障害青年サポートセンター近江八幡 スクールなかま」に通う一人。書道の福角窓月先生に古代象形文字を学んで市展に出品し、評価を受けました。

10月9日、「スクールなかま」の6人の講師が、これまでの活動を報告する「第1回実践報告研修会」を男女共同参画センターで開き、31人が参加しました。江戸時代に民画として広まった大津絵を教える佐藤実真先生は、郷土の歴史と、描くコツを少しずつ理解してくれた様子を報告しました。あいとうふくしモールでおにぎりを作っている中屋智子先生は、おにぎり作りをきっかけに、生産者の思いを知ってもらい、ゼミ生に「おいしい・うれしい・楽しい」を感じてほしいと話していました。本人らしい自己肯定感や、仲間との協力、相手への気づかひができる人を育てたいと、次年度に向けスタッフは張り切っていました。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



その君、一緒にうみをつくるかい？

9月17日、休暇村近江八幡で「その君、一緒にうみをつくるかい？」が開催されました。主催は海をつくる会 with シガリアン。海をつくる会は、全国規模で毎週各地の海底ゴミ、湖底ゴミ拾いを行っているダイバー集団で、名古屋支部は琵琶湖でも定期的に湖底ゴミ拾いを行っています。この日も参加者全員で湖岸ゴミ拾いや、ダイバーによる湖底ゴミ拾いなど、子どもから大人まで楽しく環境保全について考える場として、終始盛り上がりを見せていました。メンバーも随時募集しているそうです。

10月14日



親子でわくわく！野外クッキングにチャレンジ

ガールスカウトの活動に興味を持ってもらおうと、ガールスカウト滋賀県第20団と第39団が合同で、「キャンプ技術を学ぼう～野外クッキングにチャレンジ～」を西の湖自然ふれあい施設（安土 B&G 海洋センター内）で開催しました。子どもたちは「5メートルを何歩で歩けるか」などの野外活動で役立つスキルを学んだり、ポリ袋の中に具材を入れ、湯煎して無水カレーを作ったりしました。

金田小学校2年生の林田梓さんは「ロープ結びは思ったより簡単だった。今日作ったカレーは、家に帰ってもう一度家族と一緒に作りたい」と笑顔で話していました。

ガールスカウトでは団員を随時募集しています。

10月5日

サッカーを共通言語に社会貢献
青年海外協力隊員としてジンバブエへ

JICA（独立行政法人国際協力機構）の海外協力隊員としてジンバブエに派遣される安土町西老蘇在住の黒川寛斗さんが、10月から2年間の任期で赴任先へ向け出発するにあたり、市役所を訪れました。赴任地では「スポーツレクリエーション委員会 ブラウヨ」で、子どもを対象としたサッカーの巡回指導にあたる予定です。

黒川さんは、「ジンバブエでは最近サッカーが人気だと聞いていますが、指導者や道具もない状態。ジンバブエのサッカーレベル向上のため、日本で学んだことを共有したい。また、サッカー以外の教育や環境活動などにも取り組みたい」と意気込みを語りました。

10月14日



幻想的なひとときを「八幡堀まつり 2023」

八幡堀周辺と町並み一帯を、約4000個のローソクや電球の灯りでもすイベント「八幡堀まつり」が開催され、多くの市民や観光客でにぎわいました。

このイベントは（一社）近江八幡観光物産協会が主催し、今回が26回目の開催。当日はかわらミュージアムから白雲橋を経て、新町浜までがローソクなどで照らされました。また、重ね捺しスタンプラリーやマルシェ、夜遊びツアー、まちのコインを使った体験などが行われたほか、夜間まで無料開放された旧伴家住宅では、和CUBEのピラミッドが展示され、観光客らは建物と一緒に幻想的な灯りを楽しんでいました。

10月11日



次世代に伝えたい郷土のおやつ「ふなやき」

老蘇小学校の6年生28人が、地域の人たちがどのようなまちおこしを行っているのかを学習する出前講座で、安土町商工会女性部の協力を受け、ふなやき作りを通して郷土の歴史を学びました。

ふなやきとは、小麦粉・砂糖・水が主材料のパンケーキのようなもので、戦後の食糧事情が不安定な時代に、愛知川～野洲川間の下流域で、子どものおやつとして食べられていました。一説では、千利休が好んだ「ふの焼き」が「ふなやき」に名前を変えて、地域に根付いたのではないかと考えられています。子どもたちはふなやきの歴史や作り方を聞いた後、自分たちでもふなやき作りに挑戦。出来上がったほんのり甘くもちりとした食感のふなやきを、おいしそうに食べていました。